

創価大仏語弁論大会

特別賞を受賞して

は止まらず、ノドの痛みがひどくて声が出ない。予定していた先生や、手伝うと言ってくれたフランス人留学生たちとの練習も声が出ず、キャンセルする始末だった。

本番当日、マスク姿で会場入りした私は、滑り出しは快調だったのだが、「だから、きみが夜、空をながめたら」、その後が出てこない。もう一度繰り返す。完全に忘れてしまったようだ。

私は大きく両手を広げ、その手と

本学経済学部
の田村怜奈さん

「暗誦部門」射止める



観客の目を見ていたが、視線を天井へと上げながらも一度より強く、落ち着いて同じ言葉を繰り返した。すると、天井がまるで夜空に見えたかのように、その後の言葉は次々と出てきた。そして最後の「僕は、きみにとんだいたすらをしたことにならんだね……」という言葉が照れくさそうに笑いながら言った時のとても不思議な気持ちは感覚として残っている。

舞台の上で初めて『星の王子さま』

を本当に読んだ物語に入り込めた」という気がした。とにかく楽しかった。練習不足によるミスは恥ずかしくて、自分で腹が立つたが、失敗したからこそ余計に開き直って、いつもの自分を存分に出し、アクション付きで人々に伝えることができたのだと思う。

表彰の前の総評で審査委員長は「日本人は表現力が乏しいとよく言われる。欧米の人々はダイベートをするにも、体や顔の表情を存分に使

う。言葉の五〇％が体や顔の動かし方によって伝えられるとも言われている。今回の暗誦でも、ただ覚えればよいのではなく、どれだけ自分の中に取り込み、自らの伝え方で人々に伝えることができる、ということを求めた」とおっしゃった。「さて、まずは審査員特別賞の発表から……田村怜奈さん」。失敗したのに。もちろん嬉しかったが、その前になぜ自分が表彰されたのかわからず驚いてしまった。

表彰式の後、フランス人の審査員の方に「田村さんはフランスに住んでいたことがあるのですか？」と聞かれた。私は行ったことすらないと答えると、彼女はものすごく驚いた。「あなたの表現の仕方、言葉の伝え方は、本当にフランス人そのものです！」。そう力を込めて言われた時は、表彰されたことより何よりもうれしかった。

審査委員長にも「われわれは皆、あなたがフランスに住んでいたのだと思った。フランス人かと思わせるほど本当に発音と表現力が素晴らしいかった。だから田村さんの特別賞は満場一致で決まったんですよ。こんなに嬉しいことはない！ 初めてフランス語を人に聞いてもらう場で、ここまで言われたら、ますます頑張らなければ！ とテンションは上がる一方だった。

いつものように果敢に何事にもチャレンジすることの大切さだけでなく、今回の挑戦でかなり大きな自信を私は得た。最後に渡邊先生へ。挑戦のチャンスとサポート、ありがとうございました。

(経済学部2年 田村怜奈)

私はとにかく、いつでも何かかに挑戦していた人間だ。担任の渡邊先生から第二十回創価大学創立者杯フランス語弁論大会暗誦部門出場のことを聞いた時も「自分が楽しければいい」という、いつもの考えで即座に決心した。そんな図々しい私の課題文は『星の王子さま』に決まった。

本番まであと一週間という時にまさか風邪とアレルギーのダブル攻撃によって苦しめられ、練習を阻まれるなんて考えもみなかった。暗記は声に出して覚えるのが一番だが、咳